

# 背骨 骨盤を支える急所 重い腰痛 [仙腸関節]を正し

## ギックリ腰が続々 画期的新療法 治り医師も驚いた

●住田憲是先生が治療されている望クリニック整形外科は、〒177-0202東京都豊島区雑司が谷二丁目四十一番〇三―三九八六―七八八九です。

### 鎮痛薬も神経ブロック注射も無効の重い腰痛を続々と治す画期的新療法「AKA」が大評判

望クリニック  
整形外科院長  
すみ た かすよし  
**住田憲是**

#### 現代医学では腰痛を根治できない

みなさんは、日本人が最も多く悩んでいる体の不調が何かご存じでしょうか。それは、腰痛です。

厚生労働省の平成十六年の「国民生活基礎調査」によれば、なんらかの体の不調を持つ人の中で、男性では腰痛をトップにあげ、女性でも腰痛を二位にあげています。まさに、腰痛は国民病といっても過言ではないでしょう。パソコンに一日じゅう向かう仕事や、ゴルフなど中腰で行うスポーツなどが腰痛の原因といえます。

しかし私は、腰痛の人が増えている一番大きな理由は、病医院の整形外科に適切な治療がないためではないかと、考えています。

きつと、みなさんの多くは、腰痛になっても病医院に行けば、適切な治療を受けられるだ

ろうと思っていることでしょうか。

ところが困ったことに、従来の整形外科では、腰痛をはじめひざ痛、肩こりなど整形外科領域の痛みを、根治することがなかなかできないのです。実際、整形外科で行われている治療の多くは、一時的に痛みを和らげる対症療法でしかありません。

参考までに、現在、病院内一般的に行われている整形外科領域の痛みの治療法を紹介しましょう。

ふつう、症状が比較的軽いうちは、ホットパックで患部を温める温熱療法、コルセットを着する装具療法、マッサージ、腰痛体操などが行われます。

また、痛みを強く訴える場合は、鎮痛薬を服用したり、患部に麻酔剤を注射する神経ブロック療法を行ったりします。

以上のような治療を、数カ月間行います。これらの治療で、中にはよくなる人もいますが、

完全に痛みがなくなるケースはまれです。多くの患者さんは、痛みが消えないことに焦りを募らせ、複数の病医院を転々と移るようになります。

#### 病名と痛みの原因が一致していない

さて、ひと口に腰痛といっても種類はさまざまで、ギックリ腰、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎

#### 一般的に分類される腰痛の種類

ギックリ腰、腰椎椎間板ヘルニア（腰椎の椎間板から神経がはみ出ている状態）、腰椎すべり症（上下の脊椎がズレている状態）、脊柱管狭窄症（脊柱管が狭くなり中の神経がしめつけられる状態）などがあると一般的にいわれる。





日本人には腰痛に悩む人がとても多い

その関節に關係する筋肉が異常な収縮を起こします。すると、痛みやこり、突っばり、しびれといった症状になって現れます。このような症状は、障害された関節の周囲ばかりでなく、思いもよらない遠い部位にまで起こります。これを関連痛といいます。

特に、関連痛を起こしやすいのが、体の中心部の骨盤にある仙腸関節（仙骨と腸骨をつなぐ関節）です。仙腸関節が機能異常を起こすと、周囲の筋肉だけでなく、腰・ひざ・肩・首などにある筋肉が緊張して収縮します。さらに、その影響でほかの関節が異常を起こすと、それと関係する筋肉までもが収縮します。

このような筋肉の異常な収縮の連鎖によって、全身どこにでも痛みが生じるといのが、AKA療法の基本的な考えです。

ですから、AKA療法では、なによりもまず関連痛の震源地といえる、仙腸関節の機能異常を解消します。すると、不思議なことに腰ばかりかひざや肩・ひじなど、あらゆる整形外科領域の痛みが治まるのです。

また、AKA療法の効果は痛みだけにとどまりません。冷え症や便秘・近視・耳鳴りなどの改善にも優れた効果があります。そのため、最近では整形外科だけでなく、そのほかの診療科でもAKA療法を応用したいという医師が増えています。

ことでしょう。

### 冷え症や便秘 耳鳴りにも有効

しても取れない場合、最終手段として手術することになりま。しかし、手術によって異常な部分を取り除いても、必ずしも痛みがなくなるとはかぎりません。手術後も、以前と同じ痛みを訴える人が少なくないのです。

レントゲンやMRIの画像診断でヘルニアなどの異常が認められても、全く痛みを訴えない人がいます。逆に、画像上全く正常でも痛みを訴える人が多くいます。

これはどういうことなのかというと、診断上の病名と痛みの原因が、必ずしも一致していないということ。現代の整形外科の治療が、いかに矛盾に満ちているか、おわかりになった

すべり症（上下の脊椎がズレている状態）、脊管狭窄症（脊管が狭くなり中の神経が締めつけられる状態）などがあります。主にこれらは、レントゲンやMRI（磁気共鳴断層撮影装置）によって確認される画像上の異常にもとづいてつけられた病名です。例えば、MRIで腰椎の椎間板がはみ出ていけば、腰椎椎間板ヘルニアと診断されるわけです。

実は、ここに大きな問題点があります。それは、検査で現れた異常が必ずしも、痛みの根本原因ではないということです。

例えば、病院で腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊管狭窄症と正式に診断され、その痛みがどう

